

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	なないろKids2nd		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		～ 2025年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～ 2025年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所のスタッフは、発達支援に関する豊富な知識と経験を持ち、それぞれの専門性を活かしてチームとして連携を取りながら支援にあたっています。定期的なミーティングやカンファレンスを実施し、児童一人ひとりの特性に応じた最適な対応を検討する仕組みを整えています。	子どもたちが興味を持って取り組めるよう、プログラム内容を定期的に見直し、多様な活動を取り入れるようにしています。運動遊び、集団活動、感覚統合、コグトレーニングなど、さまざまなプログラムを組み合わせることで、児童の個性や成長段階に応じた支援を提供しています。	職員のスキルアップを目的とした研修の充実を図り、より専門的な支援を提供できるよう努めています。外部・内部の研修を通じて、支援の幅を広げる取り組みを進めています。研修内容を実際の業務に反映させ、職員一人ひとりが自信を持って支援にあたるような環境を整えています。
2	児童が安心して過ごせる環境づくりを重視し、個々の特性に配慮した関わりを大切にしています。活動においては、子ども自身がリラックスしながら参加できるよう、雰囲気作りや声かけを工夫し、無理のない形で成長を促しています。	事業所では、保護者の意見や要望を大切にし、定期的なアンケートや面談を通じてコミュニケーションを取っています。日々の活動の様子を動画や写真などを利用しつつフィードバックし、保護者との信頼関係を深めることで、家庭との連携を重視しています。	運動を通じて自然に学べる機会を増やし、子どもたちが興味を持ちやすい環境づくりを推進しています。ルールやコミュニケーションのある遊びを取り入れ、発達を促すプログラムを積極的に展開しています。
3	事業所では、子どもたちが安心して過ごせるよう、環境面にも配慮しています。施設内は常に清潔に保たれ、清掃や衛生管理を徹底することで、安全で快適な空間を維持し、感染症対策にも十分に取り組んでいます。	子どもたちが快適に過ごせるよう、日々の清掃や衛生管理を徹底しています。消毒作業を適切に実施し、感染症予防のための環境づくりにも取り組んでいます。また、安全面にも配慮し、設備や備品の定期的な点検を行っています。	より快適な環境を提供するために、子どもたちが安心してできる空間づくりをさらに工夫します。感染症対策を強化し、衛生管理に関する研修を定期的に実施することで、スタッフ全員の意識向上を図ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団での活動がメインになりますので、児童一人ひとりの特性に合わせた支援が求められる中で、十分な個別対応が難しい場面がある。 児童の増加やニーズの多様化により、支援のバランスを取ることが課題。	児童の増加や支援ニーズの多様化によって、一人ひとりに寄り添う時間の確保が難しくなっている。 スタッフの役割分担や業務の最適化が求められる。	スタッフ間での役割分担を明確にし、支援の質を向上させる。 特性・課題に応じたより細やかな対応ができるよう工夫する。
2	活動が定型化しやすく、子どもたちが飽きる可能性がある。 さらに多様なプログラムを取り入れ、興味や課題など各々の発達段階に合わせた支援が求められる。	限られたリソースの中で、新しいプログラムの導入が難しいことがある。 既存の活動プログラムが固定化しやすく、定期的な見直しが必要。 ただ新しい事をするだけでなく、それをする根拠は必要。	外部研修、社内研修を強化し、より専門的な知識を取り入れる。 児童の興味や成長に応じた新しいプログラムを定期的導入する。
3	限られたスペースの中で活動を工夫する必要がある、より広い活動環境が望ましい。特に年齢が高くなってくると物足りなくなってくる。 特定の活動(運動や創作活動など)を行う際のスペースの確保が課題。	事業所のスペースや設備に限りがあり、活動範囲が制限されることがある。 より効果的なレイアウトや利用方法の工夫が求められる。	限られたスペースを有効活用するための配置変更や設備の最適化を進める。 必要に応じて地域の施設や外部スペースを活用し、活動の幅を広げる。